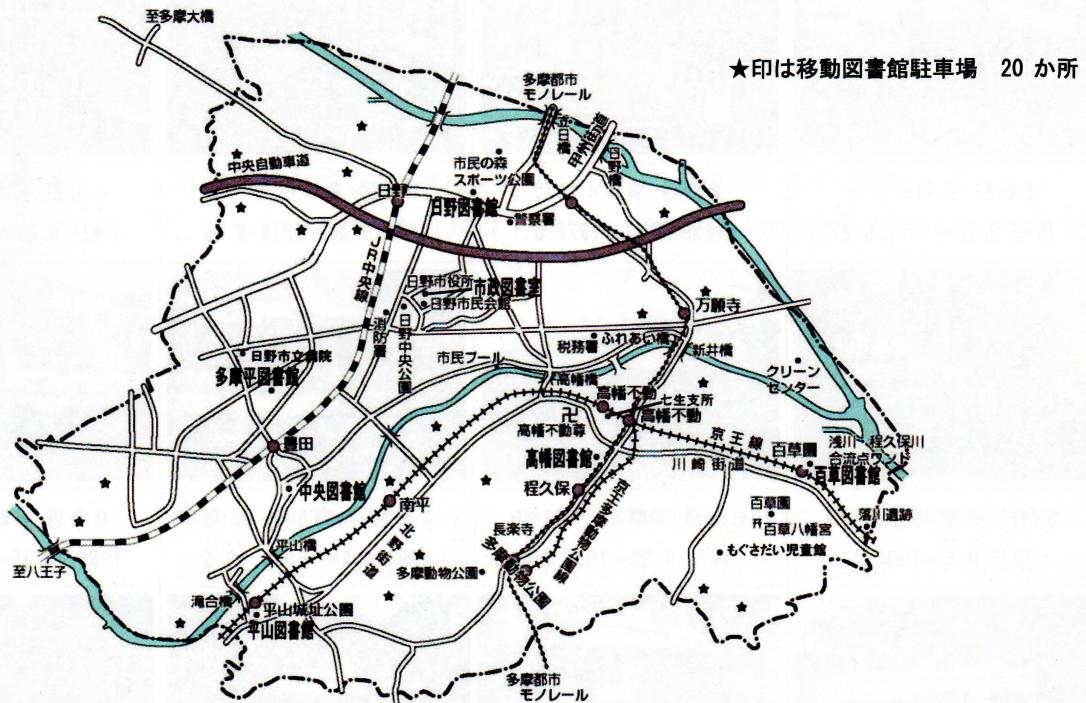


## II 移動図書館ひまわり号及び各施設の変遷

## 図書館サービスポイント



## 施設

施設の名称	延床面積	建築面積	敷地面積	現館の開館日	所在地	蔵書規模
中央図書館	2,220m <sup>2</sup> (単独)	900m <sup>2</sup>	2,105m <sup>2</sup>	昭和48年(1973) 4月28日	豊田2-49 (電 586-0584)	232,000冊 ほか研究分 21,000冊
移動図書館 (ひまわり号)	1台 (20駐車場)			昭和40年(1965) 9月21日	同上	28,000冊
高幡図書館	1,358m <sup>2</sup> (単独)	583m <sup>2</sup>	1,086m <sup>2</sup>	昭和55年(1980) 5月11日	三沢4-1-12 (電 591-7322)	88,000冊
日野図書館	422m <sup>2</sup> (単独)	234m <sup>2</sup>	833m <sup>2</sup>	昭和55年(1980) 5月18日	日野本町7-5-14 (電 584-0467)	51,000冊
多摩平図書館	856m <sup>2</sup> (併設)	1,357m <sup>2</sup>	2,243m <sup>2</sup>	平成16年(2004) 4月1日	多摩平2-9 多摩平の森ふれあい館1階 (電 583-2561)	105,000冊
平山図書館	412m <sup>2</sup> (併設)	812m <sup>2</sup>	1,075m <sup>2</sup>	平成20年(2008) 4月5日	平山5-18-2 平山季重ふれあい館1階 (電 591-7772)	50,000冊
市政図書室	140m <sup>2</sup> (併設)			昭和52年(1977) 12月1日	神明1-12-1 (電 585-1111代)	41,000冊
百草図書館	759m <sup>2</sup> (併設)			平成2年(1990) 11月16日	百草204-1 (電 594-4646)	68,000冊

## 移動図書館ひまわり号

			
1台目 多摩8て19 1965.8.28~1971.8.27	2台目 多摩8て70 1966.7.27~1971.8	3台目 多摩88さ132 1970.9.28~1976.8.20	4台目 多摩88さ510 1971.8.31~1976.8.20
			
5台目 多摩88さ24-97 1975.9.5~1984.8	6台目 多摩88さ29-80 1976.9.20~1985.10	7台目 多摩88さ93-00 1984.8.28~1995.10.6	8台目 多摩88さ211 1985.10.15~1997.10.6
			
9台目 多摩88さ61-39 1995.10.6~1998.9.11 不審火で使用困難に	10台目 多摩88す694 1998.11.30~2008.11.12 2008.11.12 大島町へ贈呈	11台目 八王子800す479 2008.11.13~ ディーゼルハイブリッド車	
			
多摩平団地 218号館 1966頃	2台目から4台目 1973	南平台住宅 1978.3.30	あらい保育園(団体貸出) 1982.10.25
			
アポロ広場 1998.3.24	帝人アパート 2004.2.17	さいかち堰公園 2007.2.7	市制施行50周年記念 大産業まつり 2013.11.4

## 1. ひまわり号巡回開始

昭和40年(1965)9月21日(火)、「ひまわり号」と命名された移動図書館車[多摩8で19:1台目、8.28~1971.8.27 積載冊数約1,500冊]の巡回が始まる。最初の巡回先は若宮町、現在の川原付市営住宅付近。残念ながら利用はゼロだったが、次の堀之内では10人くらいの市民が訪れ、ここに日野市の図書館サービスがスタートする。

1台で37か所の駐車場を2週間に1回の巡回。火曜から金曜日、1日4~5か所の駐車場で1駐車場50分間の貸出。雨天中止の場合は土曜日に振替巡回を実施。貸出は返却後貸出記録がいっさい残らないブラウン方式を採用。また当時としては他に例のないリクエスト(予約)制度を取り入れ、利用者からの資料要求に積極的に対応する。こうした取り組みの積み重ねにより、巡回を重ねるごとに次第に利用が増え、初年度の貸出は65,537冊に及ぶ。

昭和41年(1966)2月10日から移動図書館のテーマ・ソングに「ぼくの伯父さん」を流し始める。同年3月、学校(第六小学校)への配本が始まる。さらに7月には、増大する利用に対応するため移動図書館車[多摩8で70:2台目、内架式書架、7.27~1971.8 積載冊数約1,800冊]が増車され、9月12日から巡回を開始。駐車場数も55か所に増設。

同年10月22日、事務所を七生支所2階から多摩平支所2階に移転。開設2年目の貸出は95,207冊と飛躍的に増大する。この間の取り組みは『業務報告』に詳細に記録され、移動図書館車1台から始まった日野市立図書館の活動は図書館界に大きな衝撃を与える。

昭和42年(1967)6月から8月にかけて利用者懇談会が開催される。利用者からの要望を受けとめ住民とともに図書館を築こうと、こうした懇談会が意欲的に取り組まれる。同年8月、貸出文庫(企業への団体貸出)が始まる。

昭和45年(1970)9月、移動図書館車3号車[多摩88さ132:3台目、9.28~1976.8.20]が納車される。

この後しばらく移動図書館車3台体制による巡回が実施される。

昭和46年(1971)8月、30分コース12か所を新設。同月、新1号車[多摩88さ510:4台目、1965年納入車を更新、8.31~1976.8.20]が納車される。

昭和47年(1972)4月には、駐車場数がこれまで最高の76か所に達する。小規模分館とこの移動図書館のサービスポイントにより日野市全域をカバーする体制が形成される。

## 2. 中央図書館開館

昭和48年(1973)4月28日、中央図書館が開館し日野市立図書館は新たな時代に入る。移動図書館の基地も同館に移り、全域旅游を支える移動図書館の役割はますます増大する。駐車場数68か所。

昭和50年(1975)9月、新2号車[多摩88さ24-97:5台目、1966年納入車を更新、9.5~1984.8]が納車される。

昭和51年(1976)7月、巡回日程を広報ひの15号に、1か月に1回、地区別に掲載を開始する。同年9月、新1号車[多摩88さ29-80:6台目、1971年納入車を更新、9.20~1985.10]が納車される。

## 3. 貸出方式を電算化

昭和52年(1977)1月、第1期電算化計画がスタートする。貸出方式がPOS方式に代わり巡回先における貸出・返却処理方法が一変する。ジュラルミンケースに納められたポータブル端末が目を引いた。

昭和50年度(1975)、個人貸出数367,027冊と移動図書館の歴史50年間で最高の貸出数を記録する。昭和55年(1980)5月、新高幡、日野両館の開館に伴い、同地区内の駐車場が整理され、駐車場数58か所になる。昭和56年(1981)4月から巡回日程を広報1日号掲載に変更する。

昭和57年(1982)1月、第2期電算化計画に入り、ポータブル端末がA3判ほどに小型化される。こ

の後コンピュータシステムの更新を重ね、現在では手のひらサイズまで軽量化される。同年5月、学校支援の一環として、移動図書館の巡回を1週間休んで、小学校19校、中学校1校への団体貸出を開始する。小学校には低学年は各クラス100冊、中学年以上は50冊、平成8年(1996)まで毎年ほぼ全校へ貸出が実施される。

昭和59年(1984)8月、新2号車[多摩88さ93-00:7台目、1975年納入車を更新、8.28~1995.10.6]が納車される。

昭和60年(1985)9月9日、制作協力したNHK教育テレビ、『わたしたちのくらし』で「うごく図書館」が放映される。同年10月、新1号車[八王子88さ211:8台目、1976年納入車を更新、10.15~1997.10.6]が納車される。

平成元年(1989)5月、事業所安全衛生委員会図書館専門委員会により『移動図書館作業標準』が作成される。

#### 4. 路上駐車場を廃止

平成6年(1994)12月、路上駐車場の廃止に伴い巡回時間・曜日を変更する。駐車場数47か所(休止中1)。

平成7年(1995)10月、新2号車[八王子88さ61-39:9台目、1984年納入車を更新、10.6~1998.9.11]が納車される。旧移動図書館車2号車は廃車後、「アジア・アフリカと共に歩む会」を通じて南アフリカへ渡り現地で第二の人生を歩んだ。

平成9年(1997)10月6日、1号車(八王子88さ211)が廃車される。

#### 5. ひまわり号を1台体制に

平成9年(1997)10月7日、移動図書館車1台体制の開始にともない、駐車場を35か所に減らし新巡回日程に変更する。

平成10年(1998)8月13日、移動図書館車が不審火にあい使用困難になる。同年9月16日より12月

4日まで、軽自動車とワゴン車で代行巡回を実施する。同年11月30日、旧移動図書館車の書架を一部利用した新車[八王子88す694:10台目、11.30~2008.11.12]が納車される。同年12月8日、移動図書館車の巡回を隔週巡回から月2回、巡回週・曜日を固定しての巡回に変更する。

第2次行財政改革大綱で移動図書館の廃止が掲げられるなか、平成11年(2009)10月、小川第4代館長から「移動図書館廃止に関する基本的な考え方」が示され、存続で決着する。

平成14年(2002)4月、運転業務等を民間業者に委託する。昭和40年(1965)9月以来、移動図書館車の運転は職員が行ってきたが、これを委託し、職員と委託運転手の2名による通常巡回となる。

平成20年(2008)11月、排ガス規制のため廃車になった旧移動図書館車を大島町へ移管する。同月、新移動図書館車[八王子800す479:11台目ディーゼルハイブリッド車をレンタル、11.13~]が巡回を開始。

#### 6. むすび

現在、20か所の駐車場を毎週木曜日と金曜日、1日4か所から6か所を1駐車場20分・25分・30分・40分・50分のいずれかの貸出時間で巡回する。ここ数年の貸出は23,000冊弱程度にとどまるが、保育園、幼稚園、学童クラブ、病院など団体への図書館サービスも担う。平成26年度(2014)には51団体へ、延べ162回巡回し、21,422冊を貸し出している。さらに市が開催するイベントにも積極的に参加し図書館のPRに取り組んでいる。

平成27年(2015)9月、移動図書館ひまわり号は初巡回から丸50年を迎えたが、「何でも、いつでも、どこでも、誰にでも」を図書館サービスの目標として掲げる日野市立図書館の原点として、また、図書館全域旅游を支える重要なサービス拠点として今もゆるぎない存在だ。

## 高幡図書館

高幡図書館（七生支所2階 昭和41年〈1966〉6月28日開館）→新高幡図書館（昭和55年〈1980〉5月11日開館）

			
高幡図書館 昭和41年（1966）6月	高幡図書館 昭和44年（1969）	高幡図書館 昭和55年（1980）3月	新高幡図書館 昭和55年（1980）5月
			
新高幡図書館 平成9年（1997）10月		新高幡図書館 平成27年（2015）3月	

移動図書館の事務所が市民集会場から七生支所内に移った翌年の昭和41年（1966）6月28日から貸出を開始。月曜から金曜日は午前8時30分から午後5時。土曜日は午前8時30分から12時までの開館。延床面積82.5m<sup>2</sup>と極めて狭かったが高幡不動駅に近く、近隣には大型の集合住宅もひかえ地域住民から歓迎される。同年10月22日には事務所が多摩平支所2階に移転する。

昭和43年（1968）7月15日、開館日・開館時間を月曜から金曜日まで午後1時30分から5時までに変更。さらに昭和48年（1973）4月1日からは日曜日の開館を実施。

昭和55年（1980）5月11日、旧館からほど近い高幡消防署隣に待望の新高幡図書館が開館する。設計は中央図書館建設を手掛けた鬼頭梓建築設計事務所出身の長谷川紘（都市建築研究室）。延床面積1,358m<sup>2</sup>と中央図書館以来の大型館の誕生だ。開館にあたっては「高幡の図書館を考える会」などによる地道な建設運動があった。開館時間は火曜から金・日曜日が午前10時から午

後5時。土曜日が午前10時から12時。

当初の担当職員は正規職員5名。新館開館に伴い初めて分館長職が設けられる。

2階には専用の「お話の部屋」が設けられ、月2回のおはなし会、また年末、後に年度末の時期に人形劇や工作あそびなどのおたのしみ会を開催する。同時に、読書会室も設けられ、地域住民の学習活動の場として活用される。旧館時代から図書館を会場に活動する「子どもの本を読む会」への職員派遣も継続され平成14年（2002）まで続く。

なお、昭和60年（1985）6月、第1回日本図書館協会建築賞・最優秀を受賞。翌年8月28日にはIFLA東京大会図書館見学ツアーに参加した世界各国の図書館人80名が訪れ、子どもの本を読む会のメンバーとともに一行を歓迎する。

昭和60年（1985）10月から中央図書館と同館で、日頃子どもたちの身近なところにいる大人を対象に、おはなしの魅力を伝えようと、大人のためのおはなし会を開催。平成8年（1996）まで全12回実施。

昭和62年(1987)7月から土曜日の開館時間を5時までに変更する。平成13年(2001)7月からはお話の部屋の一般利用が可能となり、市民グループによるおはなし会も開催される。同月担当職員が6名に増員されると同時に、火・木曜日の夜間開館が始まり、平成16年(2004)4月からは火曜から金曜日に拡大、また祝日開館も実施される。さらに平成22年(2010)1月には2階読書会室を条件付きで学習スペースとして開放する。

図書の分野別保存分担として「2・8門」を受け持つ。

開館当初200,000冊台だった貸出は平成20年度(2008)以降300,000冊台を超え、ここ数年は330,000冊台に達している。担当職員は正規職員3名・再任用職員1名、臨時・嘱託員は計9名。以下、職員数はすべて平成27年(2015)4月1日現在の数値。各館の臨時・嘱託員数はすべて契約者数。

## 日野図書館

福祉センター図書館(昭和42<1967>年7月2日開館)→日野図書館(昭和55年<1980>5月18日)→日野図書館リニューアル(平成17年<2005>4月3日)

福祉センター図書館 昭和44年(1969)	福祉センター図書館 昭和54年(1979)4月	日野図書館 昭和62年(1987)5月	日野図書館 平成9年(1997)10月
日野図書館 平成26年 (2014) 1階・2階			

### 福祉センター図書館(閉館)

昭和42年(1967)7月2日、福祉センター2階に開設。延床面積100m<sup>2</sup>。火曜から金曜日と日曜日の午後1時30分から午後5時まで開館。正規職員1名と臨時職員1名の計2名で対応。同館には中央公民館、ひの児童館、日野一中など

が隣接し、午後ののみの開館にもかかわらず多い年には約69,000冊を貸し出す。昭和55年(1980)5月、日野図書館が開館するまでの約13年間、日野本町など市内北部地区をカバーした。

### 日野図書館

昭和55年(1980)5月18日、福祉センターのすぐ近く、甲州街道に面した旧郵便局施設の1階に開館。延床面積422m<sup>2</sup>(1階:233m<sup>2</sup>、2階:

189m<sup>2</sup>)。正規職員3名。臨時、後に嘱託員2名(日曜日のみ)。2階には中央福祉センターフラッシュがあり、月に一度土曜日開館のおもちゃ図書館「こ

あら」が併設されていた。

その後、平成17年(2005)4月3日に、日野宿再生プロジェクトの一環として同施設を改修(耐震補強工事含む)しリニューアルオープン。延床面積422m<sup>2</sup>。2階部分も使用可能となり、新選組や日野宿関係の資料コーナーを設ける。夜間、祝日と開館時間も拡大し利用も伸びる。この規模の図書館ながら約250,000冊を貸し出す。また、

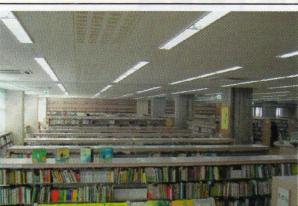
平成18年(2006)6月からは地域住民と協働で日野宿発見隊事業が始まる。まちかど写真館の開催や写真集『まちかど写真館 in ひの』第1集・第2集及び絵本『ひのっ子日野宿発見』の刊行など、地域おこしにつながる活発な活動を展開する。

担当職員3名(正規職員1名・再任用職員2名)。嘱託員計7名。

## 多摩平図書館

多摩平児童(電車)図書館(昭和41年<1966>8月24日開館)→新多摩平児童図書館(昭和46年<1971>4月10日開館~平成14年<2002>5月末閉館→多摩平図書館に統合

社会教育センター図書館(昭和44年<1969>7月16日開館)→仮設多摩平図書館(多摩平七丁目、平成12年<2000>2月15日)→新多摩平図書館(平成16年<2004>4月1日開館)

			
多摩平電車図書館 *4 昭和43年(1968)頃	新多摩平児童図書館 昭和46年(1971)4月	新多摩平児童図書館 昭和40年代後半	新多摩平児童図書館 平成14年(2002)5月
			
社会教育センター図書館 昭和44年(1969)7月	社会教育センター外観 昭和56年(1981)5月	社会教育センター図書館 昭和60年(1985)8月	新多摩平図書館 平成16年(2004)4月
新多摩平図書館 平成26年(2014)6月			

### 多摩平児童図書館(閉館)

昭和41年(1966)8月24日、高幡に次いで開館したのが、廃車した都電を利用した多摩平児童図書館(延床面積19.8m<sup>2</sup>)、通称電車図書館だ。多摩平団地内という絶好のロケーションを得て

地域の子どもたちから親しまれ、開館から8か月で55,112冊の貸出を記録する。児童書『ふたごのでんしゃ』(渡辺茂男作 堀内誠一絵 あかね書房)はこの電車図書館がモデルとなった。そ

の後、同館の老朽化が進み、再度にわたって建替を訴える少女からの市長への手紙がきっかけとなり、昭和46年(1971)4月10日、新多摩平児童図書館が開館する。延床面積105.63m<sup>2</sup>。横浜国立大学建築学科の佐藤仁等設計の同館は、国内でもめずらしい独立した児童図書館として際立つ存在だった。この年100,000冊に迫る貸出があったのを見ても、子どもたちからどれほど歓迎されたかが伺える。

平成14年(2002)5月、新多摩平図書館建設のため閉館が決定し、同月29日に開催されたお別れの会には子どもたちだけでなく、ここで育ったOBたちも駆けつけ閉館を惜しんだ。同月31日、足掛け31年間の確かな足跡を残して閉館する。なお、開館当初より職員は正規職員1名と臨時職員、後に嘱託員1名の2名により、月曜から金曜日の午後、平成14年(2002)4月からはわずかな期間だが土曜日の午後も開館した。

### 社会教育センター図書館(閉館)

昭和44年(1969)7月16日、社会教育センターの一角に開館。平成12年(2000)2月、新多摩平図書館建設に向けて、多摩平七丁目に仮設図書館が開館するまで、約31年間、多摩平・日野台地区へのサービスを担う。延床面積は66m<sup>2</sup>と極めて狭いが地元の市民にとっては身近な図書館だった。開館時間は火曜から金曜日と日曜日、午前10時から午後5時。当初より、正規職員1名と臨時、後に嘱託員1名の計2名により運営。

閉館にあたって市民の一部から存続を求める請願が議会に提出されたが、度重なる継続審議の末、最終的に否決された。

東京都新都市建設公社より施設・土地を借用して開館した多摩平七丁目の仮設多摩平図書館は、4年余りではあったが神明地区の新たな利用者を生み出し、この間、約100,000冊から140,000冊の貸出実績があった。

### 多摩平図書館

平成16年(2004)4月1日、旧多摩平児童図書館跡地に建設された多摩平の森ふれあい館(複合施設)の1階部分に開館。延床面積856m<sup>2</sup>。平成2年(1990)11月に百草図書館が開館して以来の中規模新館の誕生。開館時間は火曜から金曜日が午前10時から午後7時、土・日曜日・祝日が午前10時から午後5時。当初6名の職員を配置。ここ数年、多摩平団地の建て替えが進み、人口も大幅に急増し利用も日増しに増加。平成19年度(2007)からは市内最高の貸出を記録。

現在では市内、全貸出総数の約3割、500,000冊に迫る勢いだ。

一方、同館には「おはなしの部屋」が設けられ、月3回のおはなし会や年1回のおたのしみ会などを開催、また、同ふれあい館内にある集会室を利用して子ども読書活動推進事業に伴う講演会等を実施している。図書の分野別保存分担として、「0・5門、T実用書、909、児童書」を受け持つ。

担当職員は正規職員4名、臨時・嘱託員計15名。

## 平山図書館

平山児童図書館(昭和46年<1971>4月6日開館)→平山図書館(昭和52年<1977>4月4日)→仮設平山図書館(京王クラウンビル1階)(平成19年<2007>4月~平成20年<2008>3月)→新平山図書館(平成20年<2008>4月5日開館)



### 平山児童図書館→平山図書館

昭和46年(1971)4月6日、平山城址公園駅前のはらやま児童館2階に開館。臨時職員1名によるサービスを開始。昭和52年(1977)4月4日、児童館の移転を機に1階部分に平山図書館が開館。同時に2階部分を保存スペースとして使用。正規職員2名を配し月曜から金曜日、午後1時30分から5時まで開館。同年7月からは日曜日開館を実施。昭和53年(1978)10月29日、増築工事を経て、延床面積536m<sup>2</sup>(1階:344m<sup>2</sup>、2階:192m<sup>2</sup>)と拡張し、一般書を拡充のうえ、火曜から金曜日・日曜日の午後1時から5時までの開館を開始。平成13年(2001)11月4日からは開館時間を午前10時から午後5時までに拡大。さらに平成18年(2006)4月からは祝日開館も実施

する。

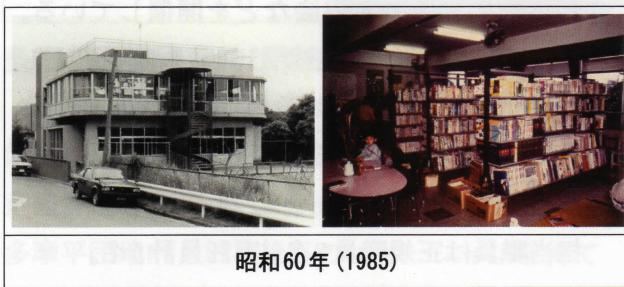
その後、平成20年(2008)4月5日、旧施設跡地に建設された複合施設の平山季重ふれあい館1階に新平山図書館が開館。旧館時代にあった保存スペースは無くなる。延床面積412m<sup>2</sup>。平山季重資料コーナーを設置。火曜から金曜日の夜間開館を実施。貸出も130,000冊を突破し現在160,000冊に迫る。

一方、0・1・2歳児対象のおはなし会を毎月1回開催。平成27年度(2015)からはその開催日を「ひよこタイム」と設定。また、同館2階の子育てひろば平山「ぱっかぱか」にも協力。

担当職員3名(正規職員2名・再任用職員1名)、嘱託員計5名。

### 百草台児童図書館(廃館)

百草台児童図書館(昭和47年<1972>4月5日開館→平成21年<2009>6月17日廃館)

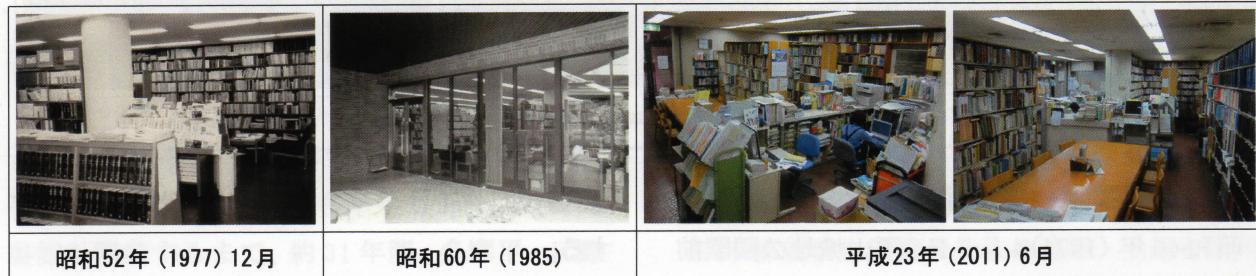


昭和47年(1972)4月5日、もぐさだい児童館2階に開館。延床面積40m<sup>2</sup>。月曜から金曜日の午後、臨時、後に嘱託員1名。運営に関する窓口は中央図書館、後に高幡図書館、そして奉仕係長が担当。その後、平成14年(2002)4月6日に開館曜日を月・水・土曜日に縮小。昭和52年度(1977)に

は30,000冊に近い貸出を記録するが、子どもの人口減少などにより平成17年度(2005)には2,000冊を割り、平成21年(2009)6月17日、ついに廃館となる。足掛け37年間、百草団地内の多摩市の子どもも含めた、この地区の子どもたちにとって安心して利用できる施設だった。

## 市政図書室

市政図書室(昭和52年<1977>12月1日開館)



詳細は「主なサービスのあゆみ」の項を参照のこと。

## 百草図書館

百草図書館(平成2年<1990>11月14日開館)



平成2年(1990)11月14日、京王線百草園駅すぐ隣の民間ビル2階に開館。延床面積は開館当時としては中央・高幡図書館に次ぐ759m<sup>2</sup>。担当職員は当初正規職員3名。開館時間は火曜から土曜日、午後1時から5時までだったが、平成4年(1992)9月11日からは火曜から日曜日、10時から5時に拡大。さらに平成16年(2004)4月1日から祝日開館、平成18年(2008)4月1日には

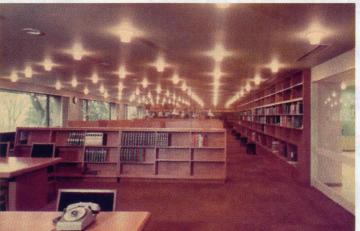
火曜から金曜日の夜間と祝日開館の全面実施。

一方、談話室を使って毎月1回のおはなし会や年度末におたのしみ会などを開催している。落川・三沢・百草地区をカバーする地域館として四半世紀が経つ。ここ数年は140,000冊弱台を貸し出す。なお事務室には市政図書室用の書庫をもつ。

担当職員は正規職員2名。嘱託員計5名。

# 中央図書館

中央図書館（昭和48年〈1973〉4月28日開館）

	正面玄関前	2階レファレンス室	1階開架室
昭和48年 (1973) 4月			
平成27年 (2015) 10月			
児童室		中庭	
昭和48年 (1973) 4月	 * 5	 * 6	
平成27年 (2015) 10月			
1階開架室		中庭側	裏駐車場側
平成23年 (2011) 3月			
平成26年 (2014) 7月			

## 1. 中央図書館誕生

昭和 40 年 (1965) 6 月 20 日に交付された図書館設置条例には、「図書館は中央図書館及び分館によって構成される」と記されている。しかし、日野市立図書館はまず市民に図書館とは何かを身を持って理解してもらうために、移動図書館による市内全域への資料提供、即ち貸出に徹する。この地道な図書館サービスの実践を経て、昭和 48 年 (1973) 4 月 28 日、待望の中央図書館が誕生する。設計にあたっては、新しい公共図書館の姿を形にしようとする建築家鬼頭と図書館人前川の熱い思いが込められていた。当時、2,220 m<sup>2</sup> という延床面積は図書館界でも驚きの目で見られたが、同館はその後の公共図書館建築のモデルとなる。

1 階には児童室と一般開架室を配置。傾斜地に建つ L 字型の地上 2 階、地下 1 階の建物は南側に中庭を配し、南向きの開架室は開放感に満ちている。また 2 階にはレファレンス室、集会室、ギャラリーのほか、事務室、応接室、休憩室を配置。さらに地下 1 階には保存スペースと移動図書館の事務スペース及び車庫を配置する。

なおこの間、昭和 63 年 (1988) 3 月に地下に電動集密書庫を設置。平成 8 年 (1996) 9 月には約 1 か月かけて開架室照明器具などの大規模改修工事を実施。また平成 10 年 (1998) 6 月には集会室を障害者サービス室に転用し、集会室に接するギャラリーの一部を改修し新集会室を設置。同年 8 月には移動図書館車が不審火にあい、それを契機に地下車庫にシャッターを設置している。

同館の完成によって、小規模館ながら全域旅游サービスを支えてきた各分館に対して、総合的なバックアップ体制が築かれる。特に物流を保障するために搬送便（通称分館連絡）の運行を拡充する。当初は職員が行っていたが平成 3 年 (1991) 4 月からは搬送業者へと移行するものの、返却窓口の自由化やインターネット受付によるリクエスト本の増大などに伴う大量の資料の搬

送は、図書館システムを機能させるうえで欠くことのできない重要な業務となっている。

## 2. 組織

同館の開館に伴い、図書館長のもと業務係、庶務整理係、奉仕係の 3 係が置かれ、途中一部変更があったものの、平成 24 年 (2012) 4 月に組織改正が行われるまで、この組織体制が続く。

(1) 業務係：貸出窓口、レファレンスサービス、予約担当。貸出窓口担当は貸出・返却・予約業務など窓口全般を担当。そのほか視聴覚資料・機材や集会室の管理等にも及ぶ。またレファレンスサービス担当はレファレンス室の管理と分館で受けたレファレンスサービスに対する支援も担当。予約担当は同館の予約のほか、全館分の協力貸出・借用の処理も受け持つ。平成 24 年 (2012) には受入部門 3 名を業務係に編入し、現担当者は 8 名（正規職員 9 名・再任用職員 2 名）。臨時・嘱託員 20 名（中央図書館合計）。

(2) 庶務整理係：庶務と受入整理部門。庶務部門は図書館資料や物品の購入など図書館全般の予算の執行・管理、各施設の管理、文書管理、嘱託員雇用管理などを担当。3 名担当。受入整理部門は資料の発注・受入・整理などを担当。最大時 5 名。平成 24 年 (2012) に庶務部門のみに変更し現担当者は 3 名。

(3) 奉仕係：移動図書館、各分館及び障害者サービス担当。移動図書館担当は 2 台の移動図書館車を運行し担当も 4 名を配置。障害者サービス担当は平成元年 (1989) に業務係に変更。平成 9 年 (1997) には分館が独立し、同時に移動図書館が 1 台体制になってからは担当者 1 名に。平成 24 年 (2012) には移動図書館担当と障害者サービス担当を統合し、現担当者は 4 名（奉仕係長含む）。

なお当初分館は午後からの開館だったため、午前中に中央図書館で選書など事務処理をした後、午後から各分館に勤務する体制をとってい

たが、分館の規模が徐々に拡大するなかで、朝からの開館が実施されるとともに多摩平児童・百草台児童図書館を除く各分館が一係として独立する。

(4) 係長会及び委員会：組織運営に関する会議とし、定例の係長会が月1回、中央図書館で開催される。特に平成9年(1997)11月以降は、館長、副館長、業務係長、庶務整理係長、奉仕係長のほか、各分館長(係長職)を含めた会議となり、館運営に関する諸事項について検討し決定する機関となっている。これを受け各係や各分館を単位として日常の運営がなされている。

この他、各事業に関わる「児童奉仕」などの業務グループがある。なお、市役所全体に関わる図書館基本計画や子ども読書活動推進計画など、政策の策定に伴い立ち上げられる委員会があり、後者においては図書館が事務局を担う。

(5) 研修：図書館員としての質的向上を図るための組織的取り組みとして、着任研修のほか、平成25年度(2013)から年1回の館内専門研修を開催している。その他、東京都公立図書館長協議会の各研究会、平成17年(2005)3月、同協議会が解散後は東京都市町村立図書館長協議会の「三多摩地域郷土資料研究会」「多摩図書館障がい者サービス研究会」「多摩地区図書館児童サービス研究会」等への運営委員としての参加や研究会活動を通じてスキルアップをめざしている。

### 3. 開館時間

開館当初の開館時間は、火曜から金曜日と日曜日が午前10時から午後5時、土曜日が午前10時から午前12時だったが、昭和62年(1987)7月より、高幡・日野図書館とともに、土曜日の開館時間を午前10時から午後5時まで延長。さらに、平成7年(1995)10月には火・木曜日の開館時間を午後7時まで延長。続いて平成16年(2004)4月からは高幡・多摩平図書館とともに、火曜から金曜日の夜間・祝日開館を実施し、平

成22年(2010)4月からは祝日に重なる月曜日も開館(翌火曜日の振替休館なし)し今日に至る。

### 4. 新たな貸出方式

一方、ブラウン方式による貸出は処理能力の限界を迎えつつあり、中央図書館児童でのトーケン方式、また社会教育センター図書館でのフォトチャージング方式の実験を経て、最終的にはコンピュータ方式を採用。昭和52年(1977)1月よりPOS方式の電算システムを導入。バッチ処理ではあるが事務処理に大きな変化をもたらす。なお導入するにあたり、図書館の自由を確保するために単独設置を位置づけるなど独自の基準を規定する。その後、ほぼ5年ごとにシステムの更新を図り、オンライン化、インターネット環境への対応等を順次進め、現在第8期に至る。現在の処理能力は導入当時と比較すると隔世の感がある。

### 5. 貸出

同館の開館により総貸出冊数は大幅に増加する。前年度643,815冊だったのが、16.8%増の752,056冊となる。その23.3%の175,773冊が同館の貸出だ。その後、200,000冊から300,000冊へと増加し、平成11年度(1999)に初めて400,000冊を超える500,000冊に近づくが、平成16年(2004)4月、新多摩平図書館の開館を契機に減少に転じ現在約300,000冊となる。

### 6. サービスの拡大

開設当時から取り組んできたサービスの拡大と同時に新たなサービスも始まる。

(1) リクエスト(予約)サービス：移動図書館による貸出開始と同時に取り入れたリクエスト制度は、同館開館以降、都立図書館協力車の段階的な拡充とともに、協力事業の展開も叶い、都立のみならず市区町村立図書館からの借用も可能となり、資料提供の幅を大きく広げる。

(2) レファレンスサービス：独立したレファレンス室の設置によって、貸出とともに資料提供を支えるレファレンスサービスが本格的に始まる。いわゆる学習室を設けず、市民の調査・研究に応えるためのレファレンス室として位置づける。また、日野市関係の地域・行政資料を収蔵した市民資料室が併設される。ここで培われたノウハウが昭和52年（1977）10月開設した市政図書室につながる。さらに平成13年（2001）12月からはインターネット端末利用の開放、また平成16年（2004）4月には業務用として有料データベースを導入。平成26年（2014）4月にはこれを利用者用に開放。続いて平成27年（2015）2月からは国立国会図書館デジタルコレクション及び「歴史的音源」の館内閲覧サービスが全館で始まり、新たな情報提供の道を開く。

(3) 障害者サービス及び(4)児童サービスについては「主なサービスのあゆみ」の項を参照。

(5) 読書案内：平成13年（2001）8月、カウンターで受けた質問を「本の案内記録」として残し共有化を図る。また児童サービスでは昭和50年代からテーマ別リストを作成するとともに、館内でのテーマ展示にも取り組んできたが、平成17年（2005）から同館業務係による一般向けのテーマ展示に組織的に取り組み始め読書案内の充実を図っている。

(6) 視聴覚サービス：開館の前年4月に社会教育課より業務引継を受けた視聴覚業務。同年11月より16ミリ映写機の操作講習会を開始し平成14年（2002）まで毎年開催する。また同時に16ミリ映写機の検定も毎年実施することになる。さらに開館とともに16ミリ映写機の機材とフィルム、及びレコードの貸出も始まる。昭和56年（1981）6月からはカセットテープ、また平成5年（1993）10月にはCDの貸出が始まる。なお平成16年（2004）4月には新多摩平図書館の開館とともに、16ミリ映写機関係を除く視聴覚資料の貸出を新多摩平図書館に移管し、平成23年

（2011）6月には百草図書館でもCDの貸出が始まる。

(7) 施設見学、職場体験への対応：平成4年（1992）、社会科副読本3年『わたしたちの日野』改訂に伴い、図書館が教材に採り上げられ、各館への施設見学依頼が増える。また、中学生のキャリア教育の一環として、体験学習の場として協力を要請される。こうした要請に対して、図書館に対する理解を深めてもらう好機ととらえ積極的に受け入れている。

(8) その他：平成19年（2007）5月に2階ギャラリーに「しごと情報コーナー」を設置し、仕事に関する情報の提供や日野市内で行われている『しごと』の紹介を始める。

## 7. 資料の収集・選書・保存・除籍・リサイクル

(1) 収集：資料の収集では新刊書、特に人気作家の作品の確保が年々厳しくなってきたため、平成3年（1991）6月より一般書の見計らい制度を導入する。なお平成22年（2010）1月に、これまで課題となっていた「日野市立図書館資料収集方針」を公開する。

(2) 選書：各館での予備選択会議（通称、予備選）、翌水曜日の各館担当者が出席する本選択会議（通称、本選）を経て購入図書を決定する方式をとる。ただ、移動図書館の選書では、当初予備選択会議を残業して行うなど変則的な方法がとられていたが、昭和55年（1980）4月以降、火曜日の午後行うように変更される。その後、平成9年（1997）10月、移動図書館車が1台体制になると、選書の方法も簡略化されたが、平成26年（2014）4月からは業務係の予備選に合流する。

(3) 保存：保存スペースが確保されたことにより収納能力が大幅に拡大するものの、昭和50年代後期にはその後の状態が危ぶまれるほどに蔵書が増加し、昭和63年（1988）3月には電動集密書架を設置するに至る。これにより収納冊数が約90,000冊から140,000冊に増加し改善が図ら

れたが、平成 16 年（2004）7 月には保存基準の見直しを行い、高幡・多摩平・百草図書館に保存スペースを設け、部門による分散型保存を取り入れる。

（4）除籍・リサイクル：日々出される除籍資料は当初有料で古紙業者に搬出されていたが、資源の有効利用を図るため、平成 8 年（1996）8 月からリサイクル事業を始める。当初同館において月に一度自由配布するが、翌年 9 月からは各館にリサイクルコーナーを常設して対応する。他方、同年 6 月からは小学校へのリサイクル図書の配布も始まる。

## 8.『新しい本』、図書館報『ひろば』、ホームページ

昭和 41 年（1966）11 月、図書館に入った新刊書を紹介する広報紙として、成人・児童図書混載の『新しい本』を発行。翌年 1 月からは成人図書に限定した『新しい本』、同年 3 月には児童図書に限定した『あたらしい本』を発行。『新しい本』は平成 18 年（2006）3 月まで掲載分量の変化はあったものの同一形式で続く。

一方、同館の開館に先立ち、昭和 48 年（1973）3 月発行の創刊準備号を経て、同年 5 月、図書館報『ひろば』創刊号が発行される。名称は昭和 42 年（1967）9 月に、利用者と図書館を結ぶ連絡紙として創刊された、日野市立図書館利用者連絡紙『ひろば』（9 号まで発行）を継承する。表紙絵は市内在住の松本キミ子氏に始まり、昭和 52 年（1977）8 月発行の 15 号からは市内在住の岩崎輝寿氏に交代、平成 18 年（2006）2 月発行の 79 号まで続く。同年 4 月には上記の『新しい本』と『図書館報ひろば』を統合し、日野市立図書館月報『ひろば』として再スタートし現在に至る。新たな取り組みとして職員持ち回りで各自のお薦め本を紹介する「図書館員の本箱」を連載中だ。

さらに平成 14 年（2002）6 月からホームページ

を公開する。所蔵情報へのアクセスを保障するとともに、広報活動における新たな頁を開く。

## 9.職員体制

土・日曜日など開館時間の拡大に対応するため非正規職員の雇用が増加するなか、平成 5 年（1993）11 月に嘱託員の任用基準を制定し、非正規職員の雇用について整理する。これにより毎年更新で最長 4 年間の継続雇用が認められる。

一方、平成 18 年（2006）4 月には第 3 次行財政改革大綱に基づき、定数 8 名の減員が実施され、これにより嘱託員数も増大する。同館でも 4 名の減員に伴い、平成 27 年 4 月 1 日現在、15 名を雇用する。週 2～3 日の勤務だが補助的業務とはいえカウンター業務や受入業務等を支える戦力となっている。これは各分館においても同様だ。

## 10.むすび

平成 25 年（2013）4 月、同館は開館 40 周年を迎えた。正面玄関前は区画整理事業に伴い宅地化が進み大きく変貌した。かつて肥沃な農地だったことなど想像もつかない。

40 年前、それまでになかった新しい公共図書館像を形にしてみせた中央図書館は、日本の公共図書館史上、歴史的にも価値のある建築物として評価されている。平成 26 年度（2014）に耐震診断が実施され、これを受け耐震補強工事が今後予定されている。

社会の変化が激しいこの時代、図書館に課せられた使命もより厳しさを増している。サービスの面はもとより、人の面、施設の面でも課題が山積している状況だが、中央図書館が日野市の図書館サービスを支えるセンターとして最大限機能できるよう努めていきたい。